

2021年度 第3四半期 決算説明会

2022年2月17日

証券コード：6879

<https://www.imagicagroup.co.jp/>



本日のご説明内容

- I 2021年度 第3四半期決算総括
- II グローバルE2E事業について
- III メタバーズ事業について

取締役 常務執行役員

森田 正和

※当資料での年度表記は右記のように記載。例：2022年3月期 ⇒ 2021年度 or FY2021
※グローバルE2E事業（海外）は開示セグメント区分では映像制作サービス事業（海外）になります

I 2021年度 第3四半期決算総括

第3四半期決算のポイント

1

- 全社のれん償却前営業利益は32億円、前年より47億円増益
- コロナ禍前（2019年度）からも20億円の増益

2

利益改善の牽引役は映像制作サービスで前年より38億円の増益

3

映像コンテンツも受注回復と収益改善効果で前年より7億円増益

第3四半期（累計）決算ハイライト

- 売上はSDI売却で減収となるも、利益は2019年度（コロナ禍前）を大幅に上回る

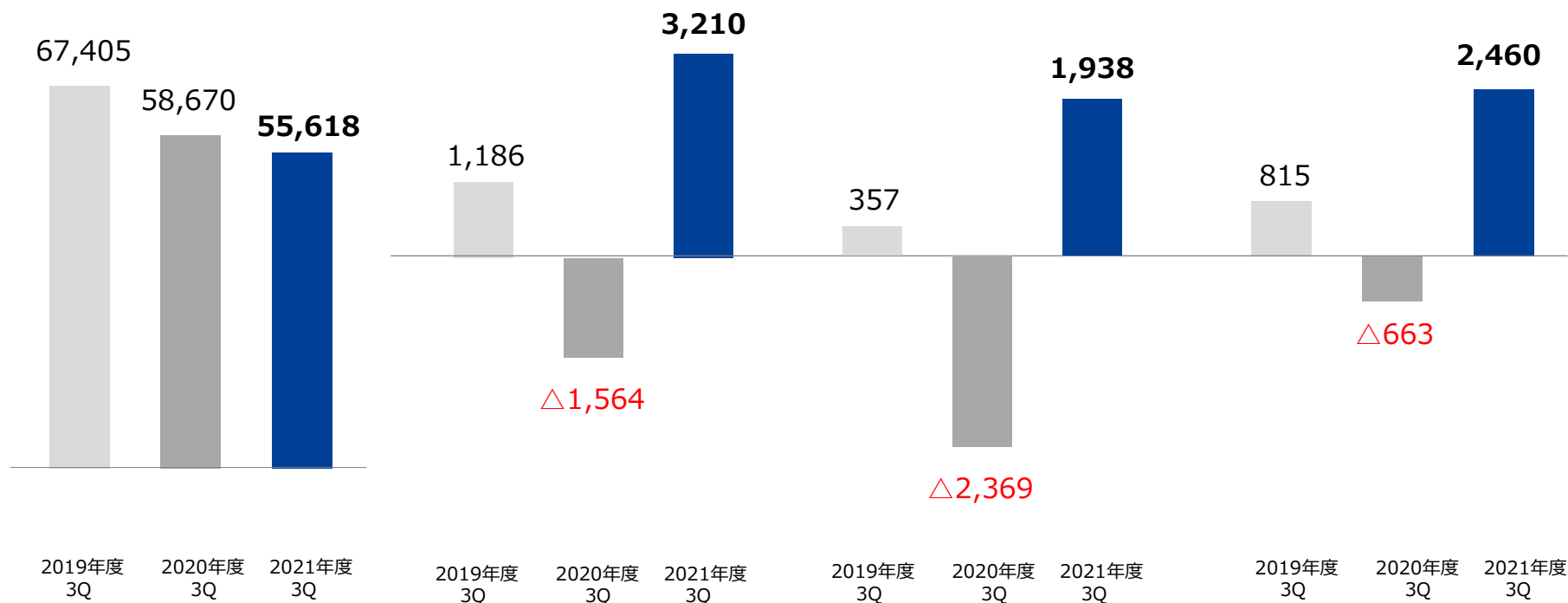
（単位：百万円）

売上高
55,618
前年増減額
△3,052

のれん償却前営業利益
3,210
前年増減額
+4,774

営業利益/損失
1,938
前年増減額
+4,307

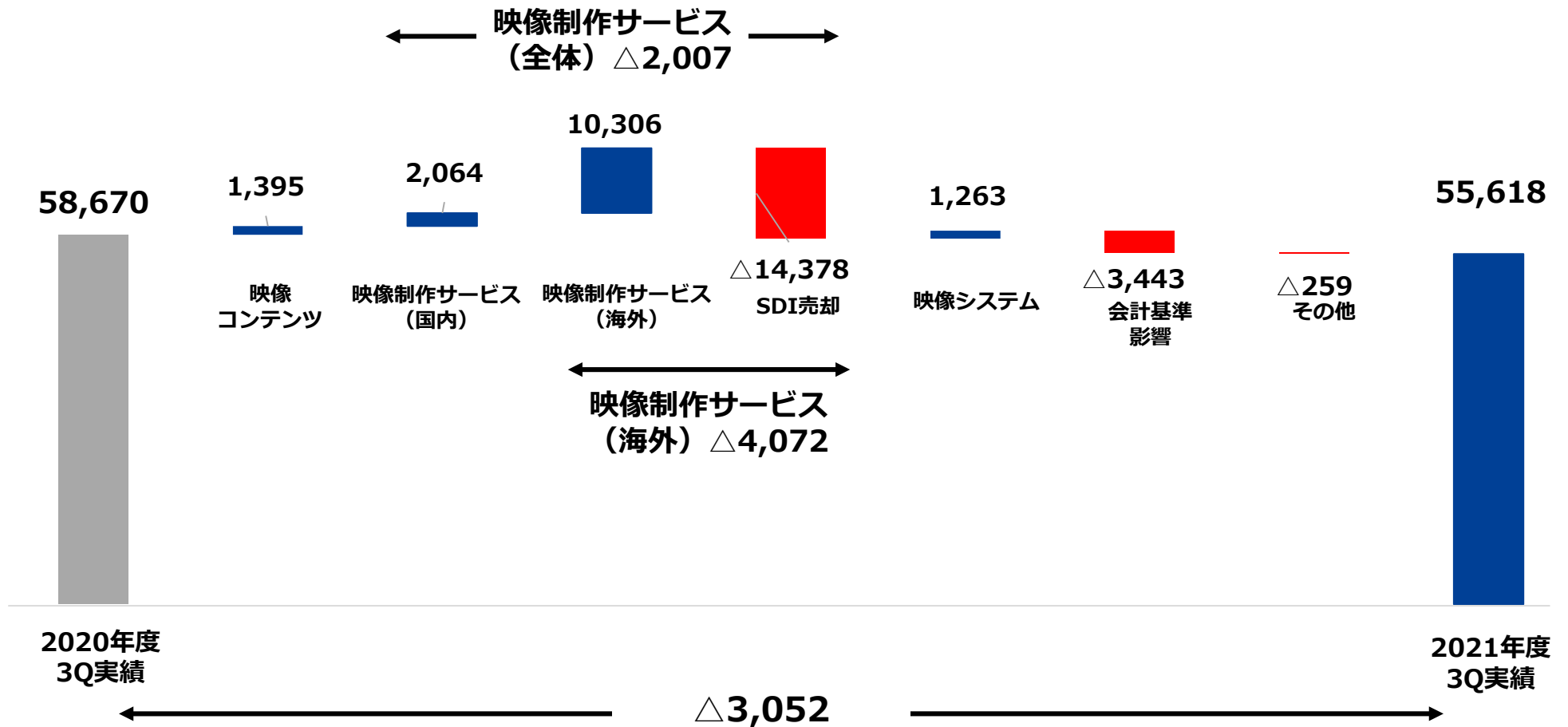
親会社株主に帰属
する当期純利益
2,460
前年増減額
+3,123



売上高の増減要因（前年比）

- ・ SDI売却影響を除くと、全セグメント増収

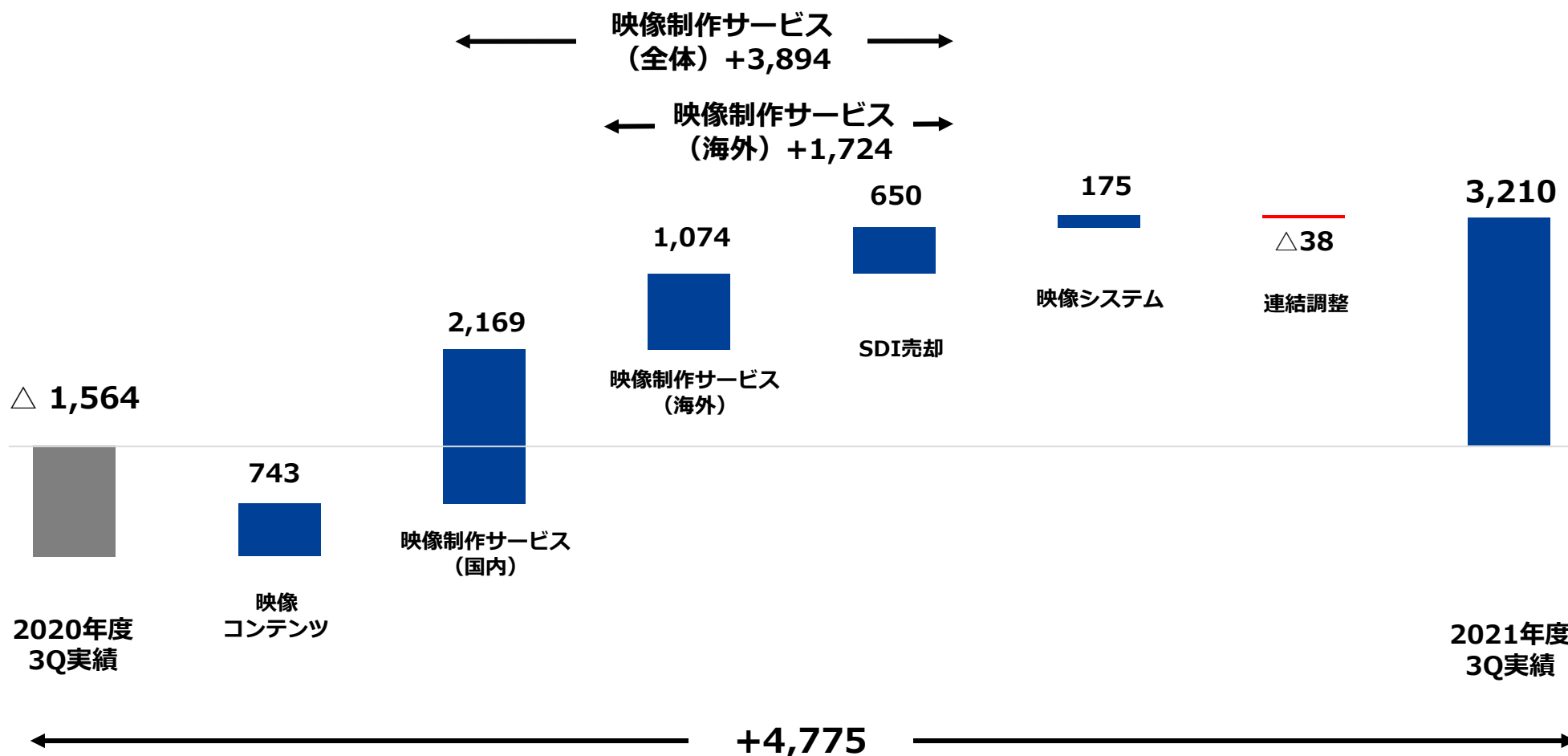
（単位：百万円）



のれん償却前営業利益の増減分析（前年比）

- 映像制作サービス38億円、映像コンテンツ7億円、連結で47億円の大増益

（単位：百万円）



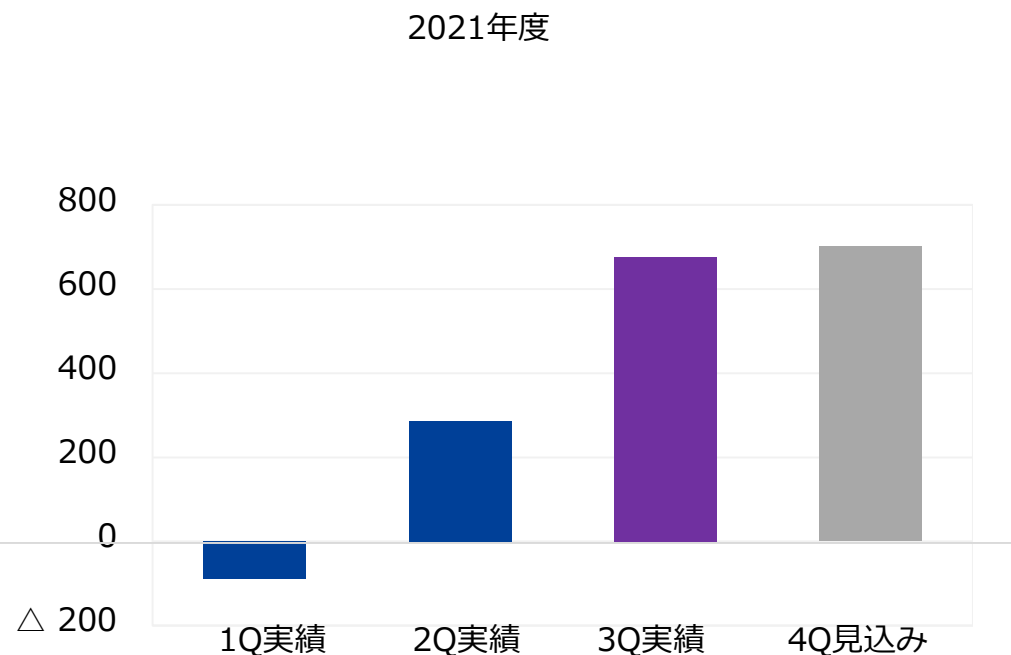
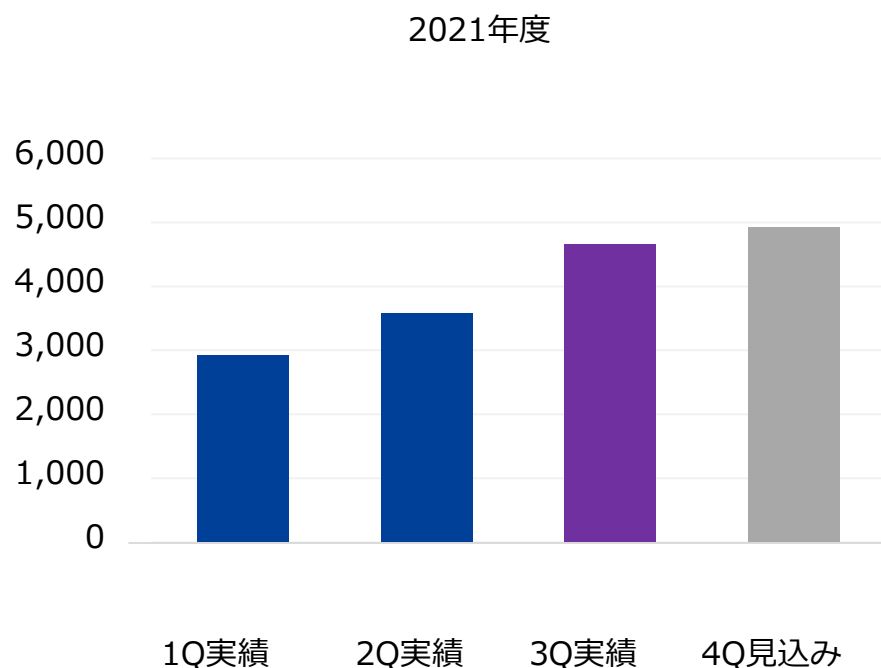
映像制作サービス（海外） 四半期別業績見込み

- ・ 3Qは見込みを上回る実績
- ・ 4Qも欧米の劇場再開に伴い、売上・利益共に堅調で収益は大幅に改善

(単位：百万円)

売上高

のれん償却前営業利益



- ✓ 動画配信事業者向けのサービスは4Q以降も好調の見込み
- ✓ 3Q（現地7－9月）は欧米の劇場再開に伴い、見込み通り利益が大幅に改善

2021年度 通期業績予想

- ・ オミクロン株による業績への影響などを見込み、現時点で業績予想は据え置く

(百万円)	2020年度	2021年度		
	実績	12/24開示 予想	前年 増減額	前年 増減率
売上高	86,727	77,000	△9,727	△11.2%
営業利益	△1,084	2,000	3,084	—
(営業利益率)	(%)	(2.0%)	—	—
経常利益	△1,343	2,500	3,843	—
親会社株主に帰属する当期純利益又は 純損失	3,454	2,500	△954	△27.6%
1株当たり当期純利益又は純損失 (円)	77.89	56.32	△21.57	△27.6%
のれん償却前営業利益	320	3,690	3,370	1,053%

Ⅱ グローバルE2E事業について

Ⅲ メタバース事業について

(再掲) 中期経営計画「G-EST2025」

逆境にも強いバランスの取れた高収益体質のグループ

<基本戦略>

1.
グローバルに事業
領域を拡大

2.
新たなライブ
エンタテインメント
ビジネスの確立

3.
映像システム事業
領域において新た
な価値を創造

4.
事業変革の完遂

<戦略的施策>

DXによる経営改革

技術開発力強化

人材の確保・活性化

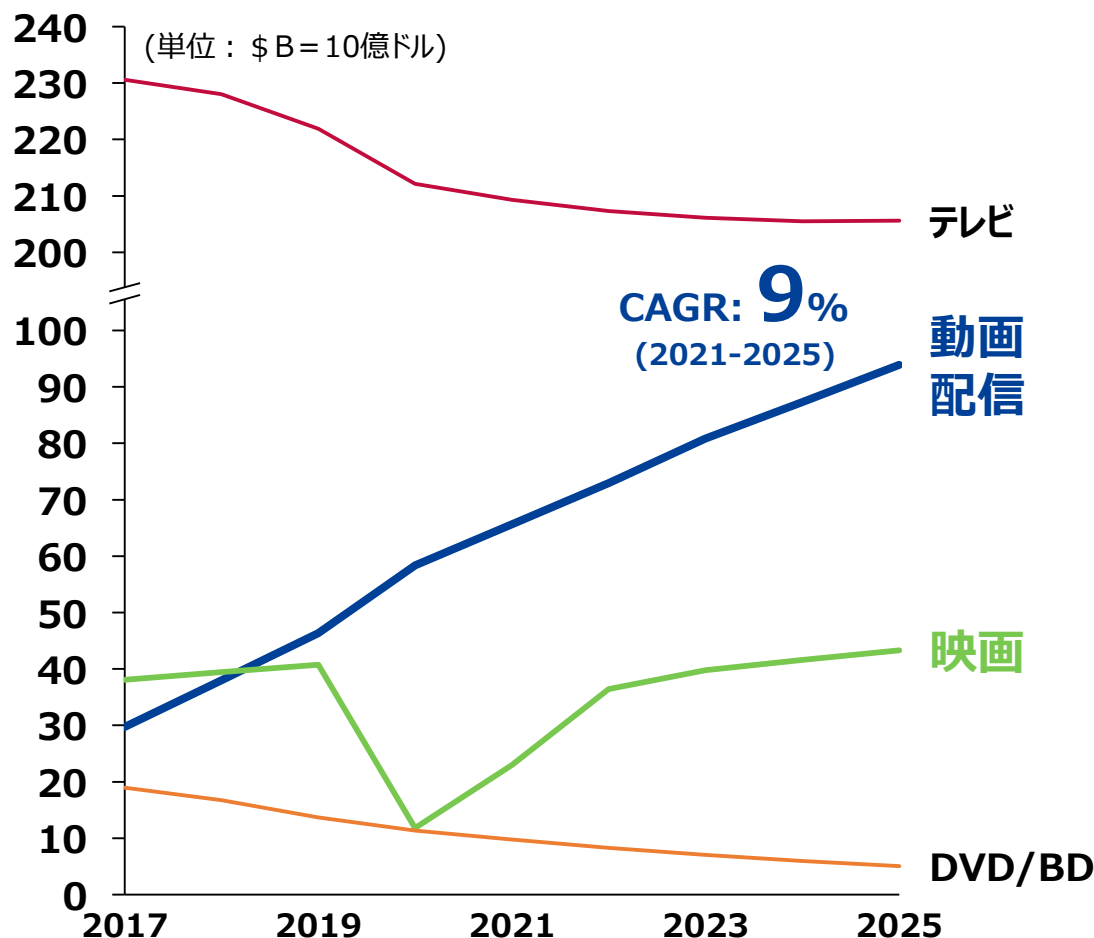
<社会課題の解決・持続的成長の実現>

SDGsの取組み

グローバルな映像事業環境の動向

- 動画配信市場は引き続き成長・拡大し、映画もコロナの影響から回復傾向
- オリジナル作品の制作数が増加、映画作品も公開と同時に配信

エンタテインメント市場規模の推移



PwC Global Entertainment and Media Outlook: 2021-2025

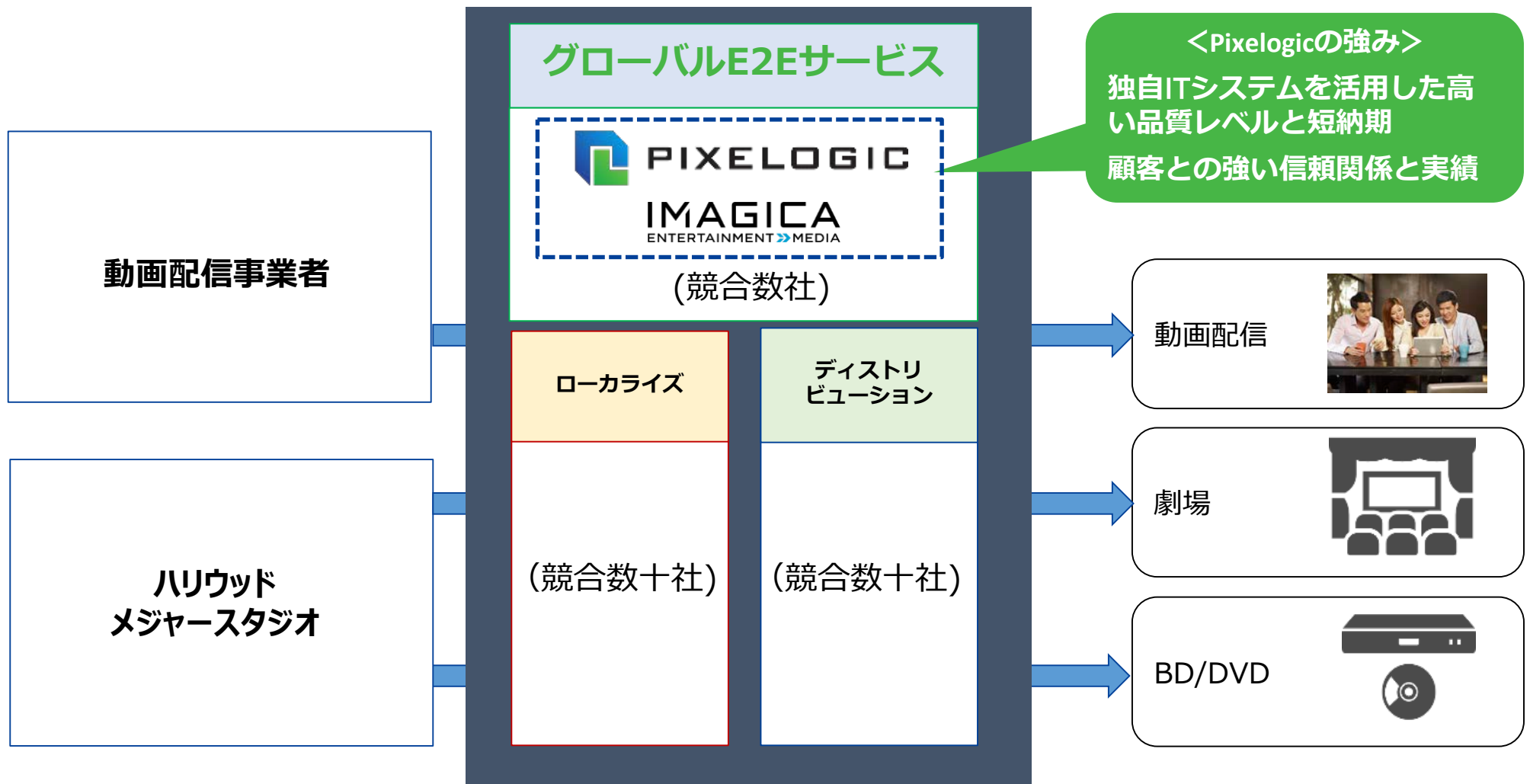
動画配信事業者/映画会社の動向



1. 多言語字幕・翻訳の増加
2. 配信プラットフォームごとの多様な納品フォーマットが必要
3. 高度セキュリティへの要求が増大

グローバルに事業を拡大する領域

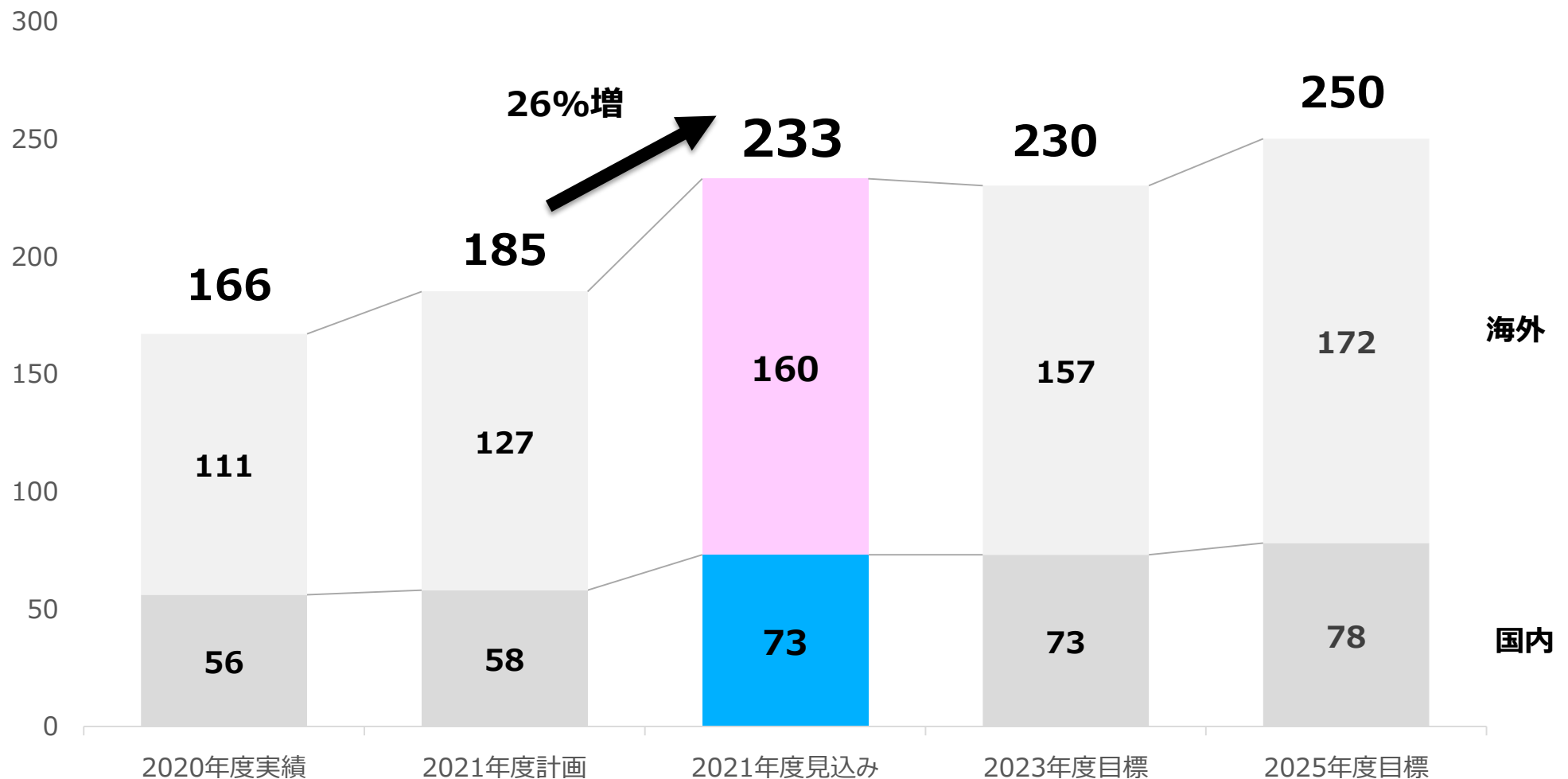
- 動画配信事業者やハリウッドメジャースタジオ等にローカライズやディストリビューションのサービスを提供するグローバル End to End サービス領域



グローバルE2E事業の売上高（2020年～2025年度）

- 2021年度見込みは233億円（計画比26%増）、2023年度目標を超える水準に

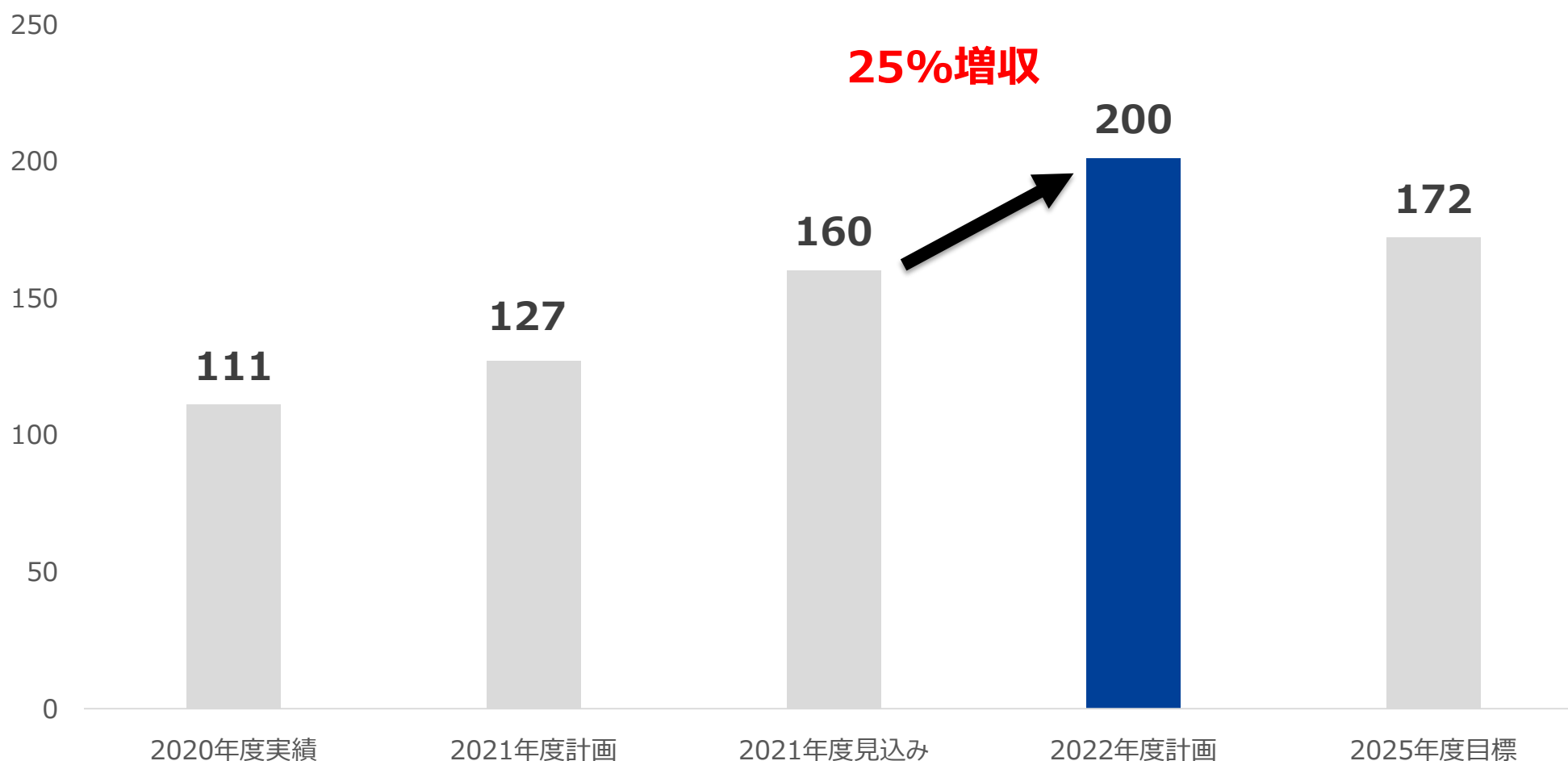
（単位：億円）



2022年度 グローバルE2E事業 海外部門

- 2022年度は前年比25%増収の計画、2025年度目標を超える見込み
- ローカライズ（20%増）、デジタルシネマ（45%増）が全体の増収をけん引

(単位：億円)



顧客動向・事業環境に対する対応策

顧客動向

配信事業者の新規参入と同時配信の進行

- オリジナル作品/旧作の増大
- 多言語ローカライズの需要拡大
- 短納期や24時間対応が必要



対応策 1

キャパシティの増強

E2Eの事業環境

人材獲得競争の激化

- 映像関連人材の労働市場が過熱
- エンジニア人材の奪い合い
- 人材獲得コストと人件費の増大



対応策 2

生産性向上と
コストダウン

具体的施策

- 「キャパシティ増強」と「生産性向上とコストダウン」により競争優位を継続確保

キャパの増強

- LA拠点、ロンドン拠点を拡張**
オーディオ関連設備の増設やクリエイティブサービスの拡大
- エジプト拠点を移転、拡張**
新拠点移転により、オーディオ関連設備を増設、セキュリティ改善
- デジタルシネマ配信サービス会社へ出資**
劇場への配信サービスを手掛けるMetaMediaとのパートナーシップ活用

LAオフィス



生産性向上とコストダウン

- 自社ITシステム「pHelix」へ追加投資**
開発推進によるE2E関連作業の更なる効率化
- エジプトの優秀な人材を獲得**
ローコストなオペレーションと顧客への24時間対応を実現
- 南アフリカの英語サービスチームの拡大**
字幕/吹替の原語となる英語ファイルを、南アの英語ネイティブで安価に対応

エジプト新オフィス



(再掲) 中期経営計画「G-EST2025」

逆境にも強いバランスの取れた高収益体質のグループ

<基本戦略>

1.
グローバルに事業
領域を拡大

2.
新たなライブ
エンタテインメント
ビジネスの確立

3.
映像システム事業
領域において新た
な価値を創造

4.
事業変革の完遂

<戦略的施策>

DXによる経営改革

技術開発力強化

人材の確保・活性化

<社会課題の解決・持続的成長の実現>

SDGsの取組み

ライブエンタテインメント事業の取り組み

- 3つの領域において具体的案件の獲得と新たな取り組みを推進中

1

ハイブリッドライブ
(リアル&オンライン)

NTTドコモと協業強化

2

高精細ライブビューイング

パートナーとの共同事業を推進中

3

映像体験型テーマパーク
「リアルな場」+「VR空間」の共創

メタバース事業への展開

IMAGICA GROUPのメタバース事業展開

IMAGICA GROUPのメタバース事業

空間における映像プロデュース力と
映像への可視化技術の強みをヴァーチャル世界で活かす

- メタバース事業へ投資、「エンタメ」・「都市空間」・「産業用」の領域に注力

投資金額 : **10** 億円

注力領域

エンタメ・メタバース	都市空間メタバース	産業用メタバース
音楽ライブやスポーツ等 ヴァーチャルイベントの 企画・演出・プロデュース	新規開発エリア/既存施設と 連動したヴァーチャルシティや ビルを企画・演出・プロデュース	製品を撮影し 3DCG上で精密に再現 ヴァーチャル空間でシミュレーション

関連領域

広告メタバース XR技術を用いメタバース空間で 新たな広告映像を表現	ECメタバース 仮想空間内のアバターや デジタル商品を3DCGで制作
---	---

注力領域のイメージ事例

エンタメ・メタバース

東京ガールズコレクションのVRアプリ開発と運用



都市空間メタバース

ヴァーチャルシティやビルを企画・演出・プロデュース



IMAGICA GROUP

産業用メタバース

3DCG上でシミュレーションを実施



©Copyright IMAGICA GROUP Inc.

2022年度に向けて

グローバルE2E事業でさらに成長を牽引

- 動画配信事業者とハリウッド映画会社からの高い需要に対応し**25%成長**
- **キャパシティ増強、生産性向上とコストダウン**により競争優位を継続確保

メタバース事業を展開

- メタバース事業へ投資、3領域 **「エンタメ」「都市空間」「産業用」**に注力

お問い合わせ先

株式会社IMAGICA GROUP グループ経営管理部

〒105-0022 東京都 港区 海岸 1-14-2

Email : ir@imagicagroup.co.jp

URL : <https://www.imagicagroup.co.jp/>

【将来予測について】

本資料に記載されている当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。

IMAGICA
GROUP